

嘉手納外語塾卒業生の門出を祝福

第18航空団広報局



嘉手納外語塾（Kadena Language Institute）は嘉手納町立の学校で、リーダーシップをえた国際的に活躍できるグローバルな人材を育成するため、英語、スペイン語、中国語、コンピューター、沖縄文化などを学習する人材育成の場です。草花が芽吹く春、3月9日、嘉手納外語塾の2011年度第13回卒業式が開催され、11人が卒業しました。

第18航空団はKLIの設立当時より、毎年インターン生を受け入れ、英語を話す生活環境での実践的な職業体験を提供してきました。2011年度の11名の学生も例年同様、およそ4週間、カスタマーサービスを求められる店や、兵隊・家族支援センターの受付、消防署、あるいは通信中隊、法務部などの職場で業務見学、あるいは実際に顧客の対応などを行いました。

第18航空団を代表し、インターンシップ・プログラムの主たる受け入れ部隊である第18任務支援群の司令官ラフティール・コンスタンティーン大佐や同群副司令官のピーター・ボロック中佐が卒業式に出席しました。ベストインターン賞を発表する際、コンスタンティーン大佐は、「毎年、『最優秀インターン生』を一人選ぶということはとても難しく、今年はさらにむずかしい判断でした。と申し上げるのも、研修先の監督者達からは、皆さん全員に対する素晴らしい評価を得ていたからです」と述べ、外国語を学ぶ塾生の努力を称えました。コンスタンティーン大佐のスピーチの最後に、ベストインターン賞が発表され、梅木教志さんが選ばれました。インターンシップ期間中、最も英語力を磨き、熱心かつ積極的に仕事に取り組んでいたことが評価されました。

また、インターンシップ中、梅木さんの上司であった第18施設中隊消防署マニュエル・マカレナ曹長や、兵隊・家族支援センター所長のシャーリー・ブラットン女史も卒業式のお祝いに駆け付けました。マカレナ曹長は、「式に参加し、卒業生たちが在学中すごく頑張ったことを知り、本式典に出席でき本当に光栄です」と述べ、ブラットン女史も、「とても素晴らしい式でした。（略）会場は誇りと喜びに満ち溢っていました」と感心した様子でした。第18航空団広報局で現在インターンをしている嘉手納ハイスクールのデリース・ダニエルズさんは、伝統的な琉球舞踊である「かぎやで風」で始まった卒業式に、「アメリカの卒業式とは180度違っています」と、初めて参加した日本の卒業式に驚いていました。



現役高校生、デリースが教えてくれる
嘉手納基地内学校情報あれこれ

PART 2

嘉手納基地広報局インターン生
嘉手納ハイスクール2年 デリース・ダニエルズ著・編集

HELLO!

Panther Prowl - カデナハイスクール学校新聞

毎月カデナハイスクールでは、パンサー・プローという学校新聞が生徒たちに配られています。パンサー・プローはジャーナリズムクラスをとっている生徒たちが、一から新聞を作り上げてあり、2年生から4年生まで*が受けられる選択科目です。毎月、生徒たちはパンサー・プローの締め切りに間に合わせる必要があり、その間は生徒たちは毎日ストレスと奮闘しなければなりません。ごく稀にですが、新聞の印刷が間に合わないときがあり、その場合新聞はカデナハイスクールのホームページにアップロードされます。

カデナハイスクールは学校が設立されて30年以上になりますが、最初からジャーナリズムクラスがあったわけではありません。現在クラスを受け持っているメントウザ先生が2000年に赴任した時、ジャーナリズムクラスはありませんでした。そこで、メントウザ先生はジャーナリズムに興味を持っていた5人の生徒をあつめ放課後のクラブ活動を始めました。一年後、ジャーナリズムと言う正式なクラスが出来、今では毎月生徒たちが作る、生徒たちのための新聞が発行されています。生徒たちは、新聞の内容を決め、取材し、記事を書き、紙面のレイアウトまで、すべて自分たちの力で行っています。ジャーナリズムクラスの卒業生の中には、現在ニューヨークで雑誌編集者として活躍している人もいます。高校生になるまでは、ジャーナリズムにそれほど興味を持ついなかつた生徒でも、今では立派に新聞記者や雑誌の編集者として働いています。

*カデナハイスクールは4年制で、日本でいう中学3年生から高校3年生までのこと



P A N T H E R S O W L



See you next!

(写真提供:ヘザー・メントウザ教諭)

20TH ANNUAL OKINAWA MARATHON 2012**20TH ANNUAL OKINAWA MARATHON 2012****20TH ANNUAL 2012 OKINAWA MARATHON
20TH ANNUAL 2012 OKINAWA MARATHON****嘉手納基地第18航空団司令部へ
「和」の贈り物**

第18航空団広報局

3月14日、第18航空団司令部において沖縄防衛局報道室長・池田欽吾氏が「いけばな」を披露しました。同室長は30年に亘り池坊の華道に励み、師範の資格を持ち、防衛省本省においても長年自己の作品を提供してきたとのことです。沖縄防衛局が日々第18航空団と業務をすすめるなか、第18航

おきなわマラソンで感謝状

第18航空団広報局

2月19日に開催された第20回2012おきなわマラソンの謝恩会が、3月2日に読谷村にあるホテル日航アリビラにて開かれました。主催者の中南部広域市町村圏事務組合や協力団体などから約80名が出席しました。これまでの協力に対して感謝状の贈呈も行われ、嘉手納基地第18航空団を代表し、第18任務支援群司令官ローフィール・コンスタンティン大佐が、同組合の野国昌春（北谷町長）副理事長より、感謝状を受け取りました。

毎年嘉手納基地の憲兵隊を中心とした軍人あよそ50名が基地内マラソンコースの安全確保、交通整理につとめ、またあよそ500名のボランティアが基地内沿道をうめランナーに給水や声援でエールを送っています。



空団に対する支援に感謝を示したいということで、「いけばな」の提供となりました。米空軍基地内で花を活けるということで、作品のテーマは「平和の翼」。沖縄独特の常緑植物「ソテツ」や「月桃」を基調とし、米国旗の色、赤・青・白の三色の花を配した作品となりました。流れるような手つきで、活け始めてから15分程度で作品を完成すると、実演を見学していた司令部職員や家族から拍手と感嘆の声が上がりました。仕事の合間をみて、モロイ准将もかけつけ、日本文化の一つである「いけばな」をながめ、池田室長にお礼を述べ、米軍の慣習である握手をする方法で、航空団司令官のコインを池田氏に手渡しました。池田氏は沖縄で赴任中、沖縄独特の植物を使った作品をこれからさらに探求していくことです。

(写真全て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)



(写真全て、米空軍：ジャスティン・ヴィヴィアン上等兵撮影)



嘉手納基地の南北滑走路、補修工事を終え再開

第18航空団広報局

2012年3月29日、補修工事中であった北側滑走路の工事が終了し、運用再開の準備が整ったことを記念するセレモニーが行われました。これに伴い、17ヶ月ぶりに南北の両滑走路が再開することになります。

今回の滑走路補修工事は、2010年の10月より始まり、約9ヶ月間かけて南側を補修、2011年の6月からは北側滑走路の補修が行われていました。期間中、アスファルト路の補強、コンクリート板の交換、滑走路誘導灯や距離標識の修理、着陸用ワイヤー(収納部分含む)が取替えられました。米国政府予算の工事で、総工費1,950万ドル。

セレモニーを行う前に、FOD (foreign object debris) ウォークと呼ばれる作業が行われました。これは、空軍兵が滑走路を横一列に並んで歩き、滑走路面に何か異物がないか目で確認し、取り除いたりする作業です。

第18航空団司令官マシュー・モロイ准将は「今回の工事で、滑走路に占める割合の約10%にあたる約460万リットル分のコンクリートを入れ替えました。畳で言えば48,498枚、畳を積み上げると、高さはおよそ2,910メートルになります」と今回の補修工事の規模を説明しました。

このプロジェクトは、沖縄地区米国陸軍施設工兵隊、第18契約中隊、第18運用支援中隊の協力も受け、第718施設中隊のケビン・ロジヤーズ氏によって指揮されました。ロジヤース氏は、「嘉手納基地の飛行場は規模も大きく、運用も多岐にわたり、継続的なメンテナンスが求められ、3-5年おきに同類の修復工事があります」と述べました。



県立高校入試及び3月11日の飛行活動自粛

2012年度県立高校入試に配慮し、試験が実施された3月7日・8日の期間中、嘉手納基地では航空機による訓練飛行活動を一時的に自粛しました。また東日本大震災から1年にあたる3月11日、各地で開催される追悼式や黙とうの時間へ配慮し、地震発生の時間に合わせて午後1430から午後1500まで飛行活動を中断し、また午前8時から日没まで半旗を掲げました。



第18航空団広報局

(写真：米空軍提供)

Skoshi Kadena, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: 18wg.pa@kadena.af.mil



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuhara, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels
Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The *Skoshi Kadena* is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the *Skoshi Kadena* are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国政府、米国国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。